

令和4年度 板橋区立志村第二中学校 授業改善推進プラン

教科名

社会

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めての定期考査ということもあり、学習方法がわからない生徒も少数いたようだ。そうした生徒は十分な学習ができず、点数がとれていなかった。</li> <li>多くの生徒は、定期考査前の学習にしっかり取り組めたようで、テストの点数もまずまずだった。小テストへの取り組みが不十分だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史と地理を教える教員が違うので、教え方も違う。そうした点で違和感がないようにしていきたい。</li> <li>課題プリントを作成し、教科書を読みながら、事前に自分で予習させている。しかし、予習がしっかりとできていない生徒にどう取り組ませるか話し合いの時間が短いことが課題になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究をしっかりとやり、生徒が興味をもって取り組める課題プリントを作成する。</li> <li>50分の中で、話し合いの時間がきちんと取れるような時間配分を考える。</li> <li>小テストの回数を増やして、日常的に学習する習慣をつけさせる。</li> </ul>
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の平均点はあまり良くなかった。特に、思考・判断・表現の力をみる説明問題ができていない生徒が多かった。</li> <li>知識・理解の力をみる問題はできている生徒とできていない生徒の差が大きかった。</li> <li>教科書の地図を利用した問題は、よくできていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に課題プリントを渡し、教科書を読んで予習させてから授業に望ませたい。予習への取り組み方に差があるので、それが課題となっている。</li> <li>授業の中では、プリントの答え合わせを3～4人のグループで行わせている。その時間の確保が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明に必要なことばを理解させ、どう使うのかを普段から考えさせる。</li> <li>知識・理解を定着させるために、小テストの回数を増やし、家庭学習の習慣化につなげていく。</li> <li>課題プリントの内容を工夫し、生徒が主体的に興味をもって取り組めるようにする。</li> </ul>
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査に関しては小テストの焼き直しで出題したところ、学習しているものは高得点を取り、初めて60点以上の平均点を取れた。</li> <li>校内学力テストでは都立高校の出題内容に似せて作られたものだったためか、定期考査で高得点だったものも平凡な点で終わっている生徒がいた。突然出されたものが苦手だとわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史が終わって公民に入ると興味深く聞いている生徒がいる一方で、関心のない生徒もいる。社会的な事項に興味がないのだろうか。新聞などを利用して興味を引き出したい。</li> <li>話し合いの機会をまだ持っていない。公民には色々なディベートのテーマがあるので、是非を問うテーマを決めてやらせてみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシートを書かせている。これまで授業のまとめを生徒に文章で書かせてきたが、負担感が生徒にも教員にも多い。もう少し簡潔にして、点数化できるものを作りたい。</li> <li>教科書のグラフから読み取らせる問題を作りたい。</li> <li>今までと同様、スライドを工夫して作り、考えさせたい。</li> </ul>